

大人のチカラ

34

～子どもたちの未来のために～

子どもとのコミュニケーション①

家族の一体感高める 雰囲気づくりを考える

忙 しい日々を過ごしていると、家族との会話もおざなりになりがち。「会話なら毎日している」と思っている、意外お互いのことは分かりません。家族の絆をつなぐコミュニケーションについて高松短期大学保育学科の田中崇教講師にうかがいました。

時間が短くても 密度の濃い交流を

2007年に内閣府から発表された国民生活白書では、「あなたにとって一番大切なものは何か」という質問に、

「家族」と答える人の割合は年々増加している一方で、「親子の対話が足りていない」と感じる人も増えているという特徴的な結果が出ています。その背景として指摘されるのが、長時間労働や家族それ

ぞれが別々の部屋で過ごす、といったライフスタイルの変化です。今の子どもは習い事や塾の時間が増えて、ますます親子の時間が持ちつりくなくなっています。

しかし、ただ一緒にいる時間が長ければいいという話ではありません。中学生になると一人で過ごす時間を自然と求めるようになりますから、それまでの間にしっかりと気持ちを伝え合える関係づくりが必要。時間が短くても、密度の濃い交流となるよう、保護者が主導的な役割を果たす必要があるのです。

話題づくりとして 同じ体験を共有する

コミュニケーションで大切

なのは、「小さな変化に注意を払うこと」と「話しやすい雰囲気（共感的・受容的応答）づくり」。トラブルを抱えた子どもが発する、普段とは違う雰囲気などの「言葉にできない SOS」を感じ取れるのは、子どもとの会話があることです。家族の一体感を高められるように、雰囲気作りから考えてみましょう。

例えば夕食はテレビを消して、家族で話しながら食べるのもよいでしょう。また、子どももいつも「今日何があったの?」と聞かれては返事に困ってしまうことも。いつも同じ

質問をするのではなく、「今日はお父さんから何かあったか話すよ」などと、自分から会話のきっかけを作りましょう。

話題作りとして同じ体験を共有することも有効です。食事の準備や後片付けなど、家族全員で無理なくできそうなことを探してみればいかがでしょうか。



協力／香川県教育委員会
高松短期大学 保育学科 講師・田中崇教さん